

指数の出し方

- ・ 選択肢は「4：当てはまる」「3：どちらかといえば当てはまる」「2：どちらかといえば当てはまらない」「1：当てはまらない」の4つとした。
- ・ 指数 = (4の人数×4点+3の人数×3点+2の人数×2点+1の人数×1点) ÷ 全体の人数
- ・ 指数は、アンケートが4つの選択肢に均等に分布した場合、2.5となる。
- ・ 指数が2.5P未満となるものは改善を要する課題、3.0P未満となるものは注意を要する課題と判断する。
- ・ []はR5前期との比較

◆短期的な課題

①分かりやすい授業

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師：ねらいを明確にした授業を行っている	全校 3.2P[±0P]			
生徒：授業はわかりやすい	全校 3.3P[+0.1P]	1年 3.4P	2年 3.3P[+0.1P]	3年 3.2P[±0P]
保護：お父さんは授業がわかりやすいと思っている	全校 2.7P[+0.1P]	1年 2.7P	2年 2.6P[±0P]	3年 2.7P[+0.1P]

分析[研究主任]

数値は例年と大きく変わらないが、教師と生徒が「ねらいを明確にして分かりやすく授業を行えている」と感じているのに対し、家庭にはそのように伝わっていない。その理由として、学校や家庭での学習のようすが保護者に見えていないこと、評価テスト等で保護者が期待するような結果が出ていないことが考えられる。

改善策・計画等[研究主任]

単元を通してつけたい力を教師と生徒が共有することで、生徒が意欲的に授業に取り組むことができると考える。毎時間の「ねらい」を明確にした授業を意識し、「教科等の目標や内容」と「子どもの実態」を踏まえて教材研究や授業実践を行うことは、教師の取組として非常に重要である。指導主事を招いての研究授業や校内研究会では、担当教科だけではなく、学年または全教員が参加し、共通理解し授業力向上を図る。あわせて教師の授業デザイン意識調査を継続して行いたい。また、基礎・基本の定着を図るために、生徒の習熟度を把握しながらGIGA端末の効果的な活用、学び合いを取り入れた授業づくりを進めたい。

②家庭学習の定着

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

教師：家庭学習の習慣(1時間以上)が身につけている	全校 2.4P[-0.1P]			
生徒：家では毎日1時間以上学習している	全校 3.2P[+0.1P]	1年 2.8P	2年 3.2P[+0.2P]	3年 3.1P[+0.3P]
保護：家庭学習の習慣が身につけている(1時間以上)	全校 2.7P[±0.0P]	1年 2.9P	2年 2.5P[+0.1P]	3年 2.9P[+0.1P]

<参考 家庭学習時間調査(5月343名回答、7月286名回答)(平均時間(分)) / R4年度5月の調査結果

5月	全学年60m	1年	41m / 84m	2年	72m / 64m	3年	66m / 86m
7月	全学年60m	1年	41m	2年	66m	3年	78m

分析[研究主任]

生徒の意識としては2学年で0.2P、3学年で0.3Pの上昇が見られ、保護者の意識としてもやや上昇が見られた。しかし、実際に家庭での学習時間の調査結果としては昨年度と比較して増加していたのは2学年のみであった。3学年では意識は上昇、時間は減少という結果となり、1学年においても昨年度と比較すると大幅な家庭学習時間の減少が見られ、3学年と同様に意識と実際の学習時間に差が見られる結果となった。

家庭学習時間の平均は60分、5月も7月も2学年、3学年は60分を上回っていることから、一定の生徒は家庭学習が習慣化されてきているが、まったく家庭学習を行わない生徒が少なからずいると思われる。

改善策・計画等[研究主任]

家庭学習を定着・充実させるには、生徒一人一人に自分の目標を明確に持たせ、それに向けて「自ら課題を見つけて学習する意識」を育てることが重要だと考える。自主的に授業の復習をしたりワークを進めたりするなど、進んで学習することのできる生徒を育てたい。そのきっかけとなるよう、学習コンテストを活用して目標を達成する喜びを味わわせたい。また、キャリア教育(進路学習)を通して中学卒業後の夢や目標を持たせたい。昨年度に続き、家庭学習の方法や内容を他学年と共有できるような掲示物を作成すること、懇談や各教科の授業、集会などでも、家庭学習の方法等を具体例を挙げながら伝えることに加えて、各教科からの課題を少しずつ定期的に出す工夫をすることを今年度は全教員の取組として行いたい。

◆学校関係者評価委員からのご意見

「授業が変われば学校が変わる」という言葉の通り、学校の根幹である授業を大切に、引き続き授業研究・教材研究に励んでいただきたい。また、そのことが保護者に伝わるような手立てもこれから講じてほしい。ただし、授業もしくは学習時間という項目において、保護者は自分の子どもが持つ結果で判断する傾向にあるため、アンケート上の結果では意識の相違が発生するとも考えられる。

◆中・長期的な課題

③SNSやインターネットの使用のルール ④SNSやインターネットの使用と学習 ※動画・ゲームも含む

注目した項目とその指数・評価[教務主任]

③ 家庭では、SNS等の使用について ルールを決めている	生徒: 全校 2.8P [+0.1P] 1年 2.9P 2年 2.8P[±0.0P] 3年 2.5P[-0.1P]
	保護: 全校 2.8P [±0.0P] 1年 3.0P 2年 2.8P[+0.1P] 3年 3.0P[+0.2P]
④ SNS等は学習に支障のないように 使用している	生徒: 全校 3.1P [±0.0P] 1年 3.1P 2年 3.2P[+0.2P] 3年 3.0P[-0.1P]
	保護: 全校 2.7P [+0.1P] 1年 2.9P 2年 2.8P[+0.1P] 3年 2.9P[+0.1P]

<参考 生活アンケートより> ※数値は生徒の割合(%)

- ・ SNSやインターネット等に1時間以上/3時間以上費やす 1年 71/29 2年 88/27 [+5/ +2] 3年 88/30 [+4/ +10]
- ・ SNSに1時間以上/3時間以上費やす 1年 50/17 2年 35/ 4 [-5/ -5] 3年 53/ 7 [+16/ +3]
 - ・ 動画サイトに1時間以上/3時間以上費やす 1年 56/21 2年 56/10 [-15/ -2] 3年 63/10 [+11/ +2]
 - ・ ゲームに1時間以上/3時間以上費やす 1年 50/11 2年 48/ 7 [+1/ -2] 3年 37/ 9 [-4/ ±0]

分析[生徒指導主事・研究主任]

使用のルールは決めてはいるが、ルーズになってきていると考えられる。生まれたときからスマートフォンが普及している世代になってきているので、動画やゲームなど幼少期から見ていて、生活の中では、当たり前になっている。生徒は自分では支障が無いように使っていると考えてはいるが、保護者は支障があると考えている。

3年生は部活動を引退し、帰宅後の時間をSNS等に費やす時間が増加している。しかし今後は受験に向けて学習に力を入れていくと考えられるので、減少傾向に転じることが期待される。1・2年生においては、再度SNS等の使用について啓発活動が必要となるのではないかと。

改善策・計画等[生徒指導主事・研究主任]

放課後の時間の使い方を考え直す機会を設ける。1.2年生は、部活動・外部活動・食事・睡眠・家庭学習等を適切に取っていくことや、1.2年後の目標を設定する。

1年生は職業について、2年生は高校を調べることにより、自分の進路について考え、SNSやインターネットに使える時間はそれほど多くないことを自覚できるようにする。3年生は、勉強時間が増える一方、スマホ等を触る時間も増える傾向にあるので、部活動引退後の放課後の過ごし方を見直すようにする。

生徒自身が時間をコントロールし、生活リズムを整えることを意識できるように、学校生活ノート「ひかりの」を活用し、睡眠時間等を記録させる。また、家庭学習時間調査におけるスマホ等の利用時間の記録も継続して行い、そのデータを学年だより等で共有することで、学校・家庭が連携して学習時間の確保や生活リズム改善に取り組んでいく。

ネットトラブルに対しては、外部機関との連携を継続するとともに、保護者懇談で配布した石川県教育委員会からのリーフレット「ホットネット大作戦」を生徒に再配布し、「使い方・モラル」(利用時間、悪口や不適切な画像・動画の投稿、個人情報の保護)という観点で、生徒自身が考え・改善できるよう支援する。

◆学校関係者評価委員からのご意見

SNSやインターネットに関する課題は小学校でも同様であり、子どもの生活時間に及ぼす影響は年々大きいものとなっている。子どもの使用に関しては家庭が中心となって取り組むものであり、その危険性や、ルール作り及び運用に関する具体例などをPTAも一体となって取り組んでいく必要がある。啓発や周知に関して小中で連携し、継続的に取り組んでいかねばならない。

生徒指導 ～生活アンケート(生徒)より～

公表資料

<p>評価の方法とその基準</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 選択肢は「4:できている」「3:だいたいできている」「2:できていないことが多い」「1:できていない」の4つとした。 ・ ①②③④については、「4:できている」と回答した生徒の%をもとに、以下のように評価した。 80%以上→A 60%以上→B 45%以上→C 45%未満→D ・ ⑤については、「1:できていない」「2:できていないことが多い」と回答した生徒の%をもとに、以下のように評価した。 5%以下→A 10%以下→B 20%以下→C 20%以上→D ・ 評価がBCDの場合は、取組の検討・改善を行う。

①近所の人への挨拶

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
<p>「近所の人へ会った時はあいさつしていますか」</p> <p>全校 45% → 評価C [54%→評価C] 1年生 39% [R4 1年前期 59%] 2年生 50% [R4 1年後期 52%より2%↓] 3年生 49% [R4 2年後期 45%より4%↑]</p>	<p>3年生では4ポイント上昇したが、1年生では昨年度を20ポイント下回る結果となっている。地域の見守り隊や、交通指導・挨拶運動のPTAの方々が日々声をかけてくださっているが、あいさつをする習慣が年々減ってきていると痛感する。</p>	<p>引き続き、あいさつの重要性を折に触れて説き、教師自らがさわやかに挨拶をしながら指導を続ける。保護者や地域の方から褒めていただいたことなども紹介し、自己肯定感を高めるような指導を続けていく。</p>

②先生や大人に対しての敬語

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
<p>「先生方などの大人に対して、敬語を使っていますか」</p> <p>全校 61% → 評価B [67%→評価B] 1年生 57% [R4 1年前期 69%] 2年生 65% [R4 1年後期 73%より8%↓] 3年生 61% [R4 2年後期 68%より7%↓]</p>	<p>動画や、ゲーム内での言葉使いになれてきており、対面での言葉づかいが習慣化できなくなっている。日常生活でも正しい言葉づかいをすることが難しい場面が見られる。</p>	<p>日常生活での指導とともに、授業中も発表の模範を示し、正しい敬語を学ぶ場とする。3年は面接指導と、12年は外部講師招聘と絡めて、重点的に指導する。</p>

③チャイム前着席

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
<p>「チャイム前着席はできていますか」</p> <p>全校 53% → 評価C [66%→評価B] 1年生 40% [R4 1年前期 69%] 2年生 59% [R4 1年後期 66%より5%↓] 3年生 63% [R4 2年後期 54%より9%↑]</p>	<p>全体の数値は昨年度後期より下がっているが、肯定的な数値の割合は97%と生徒はできていると感じている。1年生の評価が厳しくなっている。一部の生徒ができていないのが現状である。</p>	<p>生活委員会の「マイスター」の取組等を通して、できたところを認めて褒めるようにする。また、授業者としては、「チャイムスタート・終了」を意識していく。授業者が早めに教室に向かうなどこちら側の意識も高めていけるようにする。</p>

④朝学習(読書)

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
<p>「朝学習(読書)は静かにできていますか」</p> <p>全校 68% → 評価B [77%→評価B] 1年生 60% [R4 1年前期 93%] 2年生 80% [R4 1年後期 89%より9%↓] 3年生 68% [R4 2年後期 64%より4%↑]</p>	<p>1年生は昨年度の1年生に比べて大きく低下している。読書をする習慣が減ってきていると思われる。多くの生徒は朝読書に取り組むことができているが、一部生徒は05運動ができず、結果として準備が遅れ、騒がしさを生じてしまう。</p>	<p>余裕を持って登校できるように全校や学年、個別に指導していく。図書館の利用を促し、読書をする習慣を身につけられるように支援する。</p>

⑤忘れ物

質問項目とその結果・評価[教務主任]	分析[生徒指導主事]	改善策・計画など[生徒指導主事]
<p>「忘れ物をせずに授業に参加できていますか」</p> <p>※「できていない」「できていないことが多い」の回答</p> <p>全校 9% → 評価B [7%→評価B] 1年生 12% [R4 1年前期 6%] 2年生 5% [R4 1年後期 6%より1%↓] 3年生 7% [R4 2年後期 13%より6%↓]</p>	<p>全体的に忘れ物をせずに参加できていると感じている生徒がほとんどであるが、1年生では12%の生徒が忘れ物をしていると回答している。3年生で昨年度より向上している。</p>	<p>継続してCLの取り組みを行うとともに、「ひかりの」の活用を促していく。教科書等は置いていってもよいので、日々の予定を各自確認するように終礼時等で声かけを行っていく。</p>

◆学校関係者評価委員からのご意見

<p>①近所の人への挨拶についての数値は、自分に厳しく評価しているように思う。生徒は地域でもよく挨拶をしてくれる。小学校でも児童の「自己肯定感」が上がるように、個別の声かけを意識して行っている。引き続き、生徒の自己肯定感を高める取組をお願いしたい。</p>
--

◆その他 学校関係者評価委員会からのご意見

「いじめられたり無視されたりすることなく、安心して過ごしている」の項目は、毎年安定した推移もしくは上昇となっている。ある学年では、学校生活に関し、複数の項目で生徒より保護者の方が肯定的な評価になっている。これらは素晴らしい結果であり、生徒たちが安定した学校生活を送りながら、成長することができている証である。一方で、安心できる居場所を求めている生徒がいることも事実であり、その生徒たちが少しずつでも安心できる方向に向かっていけるように不断の取組をお願いしたい。

校区内には三つの小学校があり、その他にも様々な小学校から卒業してきた生徒たちが、互いに優しく穏やかな関係性を築いて安心した学校生活を送れていることに感謝したい。

学校評価について膨大なデータをまとめ、分析するのに多大な時間と労力を費やしていることと推察する。生徒の学校生活に関することについては、別途定期的に行っているものがあると聞いている。本会にかけのための項目や文言は精選し、ねらいを絞ったものにしてみてはどうだろうか。